

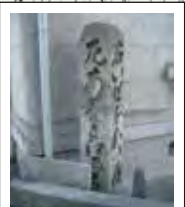
(5) 札の辻

(宇陀市榛原萩原～榛原長峯)

峠や川などの難所が多い伊勢本街道は、南北朝時代に上多気へ移った北畠氏が整備。神宮遷座の道ともいわれ、大和と伊勢の両方から「本街道」と呼ばれている。新道建設には難所を迂回する別ルートがとられたため、昔の面影を残す道として、歩いて伊勢をめざす人に注目されている。



41 あぶらや
明治10年頃まで営業の元旅籠。萩原の賑わいを本居宣長は『菅笠日記』に記す



42 「札の辻」の角石の道標
伊勢本街道と初瀬街道(あお越え道)の分岐点。高札場のあった札の辻に建つ



43 太神宮灯籠
御室御所(仁和寺)御寄附の銘がある



49 東町の町並み
榛原の伊勢街道で唯一古い町家が続いている



51 庚申堂の辻の石標
石いせ 左はやま道



50 石標
往来安全 江戸屋



52 まち外れの道標
道標は観音寺山道を示す。杉の木の下に庚申が並ぶ



48 宗祐寺
融通念仏宗の寺院。重文の木造多聞天立像と仏涅槃図三幅を蔵する



46 墨阪神社
崇神天皇が疫病を鎮めるため赤盾8枚、赤矛8竿をもって墨坂神を祀ったと伝える。文安6年(1449)天の森から現在地に遷座する



47 天野橋
伊勢本街道はこの橋をわたり、川沿いに内牧へと続いている



額井岳への道
秀麗な山容で「大和富士」とも呼ばれる額井岳へは、天満台を経て十八(いそは)神社を過ぎて急坂を上る。(額井岳) (6)に続く



53 国道との合流点
ここから街道は国道と近鉄の線路とたさなる

地図内凡例	
	道標など
	常夜灯
	神社・仏閣・城址など
	地蔵など
	その他文化資産等
	案内板
	まちがえやすい分かれ道
	トイレ